

◆流通・加工対策事業

「海ブドウ」品評会の開催支援

水産海洋技術センター 紫波俊介 仲盛淳 久保弘文 大嶋洋行
宮古農林水産振興センター 吉田聡 津波古竜器
八重山農林水産振興センター 赤嶺貴史
水産課 須藤裕介 平安名盛正

1. 目的

沖縄県海ぶどう生産者協議会（以下「協議会」という）支援および県産海ぶどうのブランド化への対策として、水産課と調整を重ね、「沖縄産海ぶどう」の品質向上や生産管理の推進による、適切な市場評価形成と共に、生産者の意欲を促し、消費者への高品質な「沖縄産海ぶどう」の提供と認知度向上を図ることを目的とした海ブドウ品評会が行われることとなり、これを支援した。

尚、品評会は水産課による「持続的な漁業生産額拡大のためのマーケティング支援事業」にて開催された。

2. 方法及び結果

(1) 水産課・委託業者との会議出席

協議会と共に出席し、品評会内容等について議論を重ね、生産現場状況を報告した。

(2) 審査基準素案の作成

おきなわ海ぶどうブランド化マニュアル（以下「マニュアル」という）を元に、審査基準素案を作成し、水産課へ提案を行った。

(3) 協議会と連携した品評会の周知およびマニュアルの普及

品評会という時宜を得たため、マニュアルの適用促進を天久明協議会事務局長と共に実施した。結果、新たに海幸、浦添漁業協同組合新垣安弘組合員が機器整備やペトリフィルムによる清浄化海水菌検査導入、包装時の衛生管理改善等を行い品評会に参加することとなり、県産海

ぶどうブランド化に向け、核となり得る生産者育成が図られた。

(4) マニュアル遵守調査および品評会での規格検査実施

当日は品評会会場にて審査員による外観・食感等の審査と、マニュアル重要管理項目により、品評を行い、同時に広場にて試食アンケートを行い、参加生産者が海ぶどうを振る舞った。

普及員は出品者へのマニュアル遵守状況チェック、規格検査（0.08g/cm以上）を実施した。

規格検査の結果、全ての製品が規格を上回っていた。

品評会結果は、沖縄県海ぶどう生産者協議会16生産者より出品され、最優秀賞は恩納村漁協銘苺宗和氏が受賞した。

銘苺氏の海ぶどうは規格0.08g/cmを大幅に上回る0.18g/cmと、当職が確認した中では、最大記録であった。安里一月協議会会長からは、次年度開催についても県への協力をお願いしたいとの言葉があった。

3. 考察

今回品評会開催にあたり、2つの大きな成果があった。

一つは、本品評会に参加した生産者は安心・安全な海ぶどうを推進する核となる生産者であり、その生産者に対しマニュアルの周知・普及と、生産物に対する評価を受ける機会が出来た事である。

もう一つは、新たな事務局が次年度以降も品

評会を開催することを見据え、積極的に事業を行い、協議会員へ密に連絡を取られ、また、マニュアルの普及も主体的に関わられたことである。

課題としては、マニュアル適合状況が各生産者により異なること、沖縄県海ぶどうブランド化基準、マニュアルも現況に合わせ変更しなければならないことである。これらはある程度課題が見えてきたので、次年度はマニュアル等審査内容の見直しを行いつつ、各生産者へさらなる普及促進を図る必要がある。

今回の水産課による品評会開催は、会員、事務局、県が一体となり取り組むまたとない機会となった。引き続き、花と食のフェスティバルでの出品も見据え、開催できるよう支援して行

きたい。

最後にマニュアル適用が進み、見事優秀賞を受賞した生産者から頂いたメールを紹介する。

「お世話になります。今日は有り難うございました。

賞も頂き従業員共々嬉しい思いと生産者としてまた考えさせられる日になりました。

評価してもらってことはそこで働く者にとってやりがいに繋がるんだなあと思いました。

こういう機会を作って頂きまた有り難うございました。

TVインタビューへの受け答えは最悪でしたが、今回の受賞に恥じない仕事で答えたいと思っています。

これからも宜しく願っています。」



品評会会議



事務局と普及員が連携し、協議会会員にマニュアル普及実施



規格検査

最優秀賞脅威の0.192g/cm

審査員への審査方法説明



審査

協議会会員・事務局による試食会



審査終了後、各地の製品を見比べ研究する出品者

恩納村漁協銘苅宗和氏最優秀賞受賞



出品者

安里一月協議会会長・當眞亮副会長、審査員